

# 第7回水稲病害虫発生予察結果

5月上旬田植えの早生品種 [コシヒカリ・キヌヒカリ等]

## 【稲の生育状況について】

ほとんどの田んぼで穂が出ています。出穂期（田んぼ全体の40～50%穂が出ている）の田んぼもあれば、穂揃期（田んぼ全体の80～90%穂が出ている）の田んぼもあります。

米粒の充実と肥大のため、水を必要とする時期となりますので、引き続き間断灌水を行いましょ。

## 【病害虫の発生状況について】

穂が出てきたことで、各地区でカメムシの発生が確認されました。

カメムシは、穂が出てから米が成熟するまでの間に食害を与え、米の品質を著しく低下させてしまうため、適期に下記の薬剤で防除を行ってください。



クモヘリカメムシ



イネカメムシ

### 《カメムシ防除の薬剤》

病害名	薬剤名	使用量	使用時期	使用回数	使用方法
カメムシ類	トレボン 粉剤	3kg/10a	収穫7日前まで	3回	散布
カメムシ類	スタークル粉剤	3kg/10a	収穫7日前まで	3回	散布

## 粉剤防除のポイント

- カメムシは日中の暑い時間帯は株元において薬剤がかからないため、防除はカメムシが株の上側にいる早朝の涼しい時間（午前9時まで）か、夕方の気温が落ち着いた時間（午後5時以降）に行ってください。
- 田んぼ全体の80～90%穂が出たときに、1回目の防除を行ってください。
- 1回防除しても他の田んぼや雑草地から再びカメムシがやってくるので、1回目の防除から7～10日経過した頃に2回目の防除を必ず行ってください。

## 5月下旬田植えの晩生品種 [あいちのかおり SBL 等]

幼穂（穂のもとになる部分）が0.5cm程度となっております。幼穂ができる時期は水が必要ですので、水をしっかりと入れましょ。また、穂肥の施用時期となりましたので、下記の点に注意して穂肥を行いましょ。

- ① 幼穂の大きさを確認し、幼穂の大きさが8cmになるまでに行なうようにしてください。  
それより遅いと米の食味低下の原因となります。
- ② 穂肥の基準量は、1反あたりNK化成2号20kgとなっておりますが、葉色が濃い場合は、穂肥の量を少なくしましょ。また、元肥一発肥料（ナイスワンパワー等）を施用した田んぼでは、穂肥を施用する必要はありませんので注意してください。